

2019年4月1日

日本ロレンス協会会长 浅井 雅志
日本ロレンス協会副会长 田部井 世志子

会員の皆様におかれましては、お変わりなくご健勝のことと存じます。

さて、2019年度の日本ロレンス協会第50回大会は、武藤浩史、近藤康裕両先生のご尽力で6月8日（土）、9日（日）に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されます。今回は協会創立50周年記念大会で、例年以上に盛りだくさんの活気ある大会になると期待しています。

まず6月8日は、昨年新加入の若手二人の発表から始まります。一人の大江公樹氏（早稲田大学大学院生）は、「ロレンスのキリスト教観に対する母の影響——*Sons and Lovers*を中心に」と題して、「キリストが水をワインに変へたといふカナの婚礼」に対する母の「極めて実利的な解釈」を出発点として、こうした母の解釈が「ポオルだけでなく、後のロレンスの宗教観にどのように照射するか」を検討されます。続く田島健太郎氏（九州大学大学院生）は、「The Foxにおける狐の象徴性」について、ヘンリーは何故狐を撃ったのかという疑問に答えるという形で新たな解釈を提示されます。

これに続いて、50周年記念特別企画が行われます。これについては、慶應義塾大学教授の武藤氏と、英国Warwick大学名誉教授 Michael Bell、Nottingham大学准教授 Sean Matthews両氏を中心に、現在検討が進められており、内容は当日のお楽しみです。どのようなものになるにせよ、欧米のロレンス研究を代表される両氏のお話を聞く貴重な機会です。フロアも含めて議論が大いに盛り上がる 것을 기대합니다.

続いて総会が開かれますが、多くの会員の出席をお願いいたします。

6月9日も、まずは新入会員の一人、杉野久和氏（京都大学大学院生）の「Lady Chatterley's Loverと反知性——「上」を志向するコニー」で始まります。これまでこの作品解釈においては、「身体」、「接触」、「自然」などに関心が集中してきたが、ここでは、コニーがメラーズと関係をもつに至る内的要因、とりわけ女性の「上昇志向」に注目してこの作品の再解釈を試みられます。続いては、井出達郎氏（東北学院大学准教授）が、「動的プロセスとしての歓待——D. H. ロレンスにおける「風」のモチーフの再考を通して」のタイトルで、ロレンスの詩「蛇」のデリダの解釈を手掛かりに、「聖靈」をめぐるエッセイ、詩「風、ならず者」および「生きぬいた男の歌」、小説『アーロンの杖』などで描かれる「風」のモチーフの検討を通して、「他者を受け入れる」という静的な構図とは異なる、する側とされる側の双方の変容が立ち現れる「動的なプロセス」としての「歓待」のありようを提示されます。

これに続いて、井上義夫氏（一橋大学名誉教授）の特別講演「D. H. ロレンスの伝記資料とその収集」が行われます。日本におけるロレンス評伝の金字塔、『評伝 D・H・ロレンス』3部作を出されてからも、たゆまぬ研究を続けておられる井上氏からその最新報告が聞けるのは得難い機会です。どうぞお楽しみに。

昼休みを挟んで、大平章氏（早稲田大学教授）の構成・司会によるシンポジウム「21世紀の文明社会のゆくえ——D・H・ロレンスとノルベルト・エリアス」が行われます。現在の文明社会に見られる混沌、高度に発達した科学や産業がもたらす未曾有の破壊性をいち早く予言したロレンスの文学的感性は先駆的でしたが、ユダヤ系ドイツ人の社会学者ノルベルト・エリアスも第一次大戦後のワيمアル共和国時代に政治的暴力の渦巻く不安定な時代を過ごし、その後のナチスの台頭によって仏英で亡命生活を余儀なくされ、「文明化」と「非文明化」が表裏一体となる状況を背景に、「文明化の過程」という表現で西洋文明全体の歴史を問い直そうとしました。こ

うした背景を踏まえて、第一次大戦前後のヨーロッパの「不安の時代」を生きた両者が、「ヨーロッパの文明化」という問題をどう考えたかについて議論を行っていただきます。大平氏の導入の後、ロレンスの「ヨーロッパの文明化」についての見方を、彼の歴史論を土台にしながら鳥飼真人氏（高知県立大学准教授）に論じていただき、次に、エリヤスの「文明化の過程」について、社会人類学者である Julian Manning 氏（日本大学教授）に詳しく解説していただきます。フロアを交えた活発な議論を期待しています。

会員の皆様は、同封の葉書にて、大会・懇親会の出欠を、役員の皆様は併せて役員会（6月8日（土）午前10時半より、慶應義塾大学）の出欠を、**5月10日**までにお知らせください。よろしくお願ひ申し上げます。

その他、協会事務局より、幾つかのお願いと報告をさせていただきます。

1. 会費納入は同封の郵便振替用紙をご利用ください（手数料は協会負担）。会費は、一般会員は5,000円、役員は10,000円（但し顧問と退職した役員は5,000円）です。

2. 専任職に就いておらず、かつ公的な機関から研究費を受け取っていない日本ロレンス協会会員に対して、日本ロレンス協会大会で研究発表（シンポジウム講師等の担当を含む）をする場合、協会で旅費・宿泊費の補助を行う制度があります。詳細については、HPをご覧いただき、ご活用ください。

3. 同封の会員名簿の住所・所属、e-mail等に変更がある場合は、返信はがきでお知らせください。

4. 昨年3月29日-31日にUniversity Paris Nanterre in Nanterre, Franceで、“Resisting Tragedy”の総合テーマのもとに国際ロレンス学会が開催されました。25-30人くらいの小さな集まりでしたが、3年おきの大きな国際学会にはあまり参加しないフランス語圏の人が当然ながらかなりいて、親密なとてもいい会でした。この学会はこのUniversity Paris Nanterre の名誉教授のGinette Roy 氏が長いあいだ続けていて、日程もこの時期に決められています。特に若手の皆さんには、いきなり大きな国際学会に行くよりも参加しやすいと思うので、新学期直前ではありますが、参加されてみてはいかがでしょうか。

それでは、皆さん、6月に慶應義塾大学でお会いしましょう。